

『静岡茶発祥の地』足久保

安倍川の支流足久保川の流域。豊かな自然に恵まれた足久保は、古くから茶業で栄えた歴史ある地域です。

鎌倉時代の高僧聖一国師(しようちこくし)が宋より持ち帰ったお茶の種を播いた「静岡茶発祥の地」。

また江戸時代、足久保茶は「将軍家御用達の高級茶」として広く知られていました。

これらを足がかりに、足久保茶と地域の歴史を辿り、その魅力に迫ってみましょう。



ASHIKUBO

1

静岡茶

発祥の碑



MONUMENT OF SHIZUOKA TEA ORIENTATION

「聖一国師」の播いたお茶

静岡茶の祖・聖一国師
 師(1202)~1280
 年ば、足久保と峠一つ

へだてた大川地区栃沢の生まれ。聖一国師という名は、死後、花園天皇から贈られた称号で、生前は田爾(えんじ)といいました。

幼いころから利発であった聖一国師は5歳で久能寺に入門、その後各地で修行を積み、嘉禄元年(1235)に宋へ渡



2
 二区
 の
 桜並木



SAKURA NAMIKI

りました。径山(きんざん)の無準師範(ぶじゆんしばん)のもとで学び、仁治2年(1241)に帰国しますが、その際、經典をはじめ、様々な技術を持ち帰りました。九州に博多

京都の東福寺の開山として迎えられました。寛元2年(1244)、聖一国師は入宋前に学んだ上野国(群馬県)の長楽寺に栄朝禅師を訪ね、その帰り、故郷栃沢の母のもとを訪れました。このとき、宋から持ち帰った茶の種を穴窪(足久保)に播いたこと

静岡茶発祥の碑

聖一国師が宋より持ち帰った種を、茶の栽培に適した足久保に播いたことから、静岡にお茶が広まったといわれます。聖一国師の偉業を讃え、750周年を記念して「静岡茶発祥の地」と刻んだ碑が建てられました。

◀ 聖一国師像 (臨濟寺提供)

聖
 一
 国
 師

SHUICHI KOKUSHI

後、多くの貴族の尊敬を受け、九州の崇福寺や承天寺、

国師の功績といわれ、宋から持ち帰った茶の種を穴窪(足久保)に播いたことが、『東福寺誌』に記されています。茶の栽培法や利用法も学んできた聖一国師は、この地が茶の栽培に適していることを見抜いていたのでしよう。このことが、静岡茶の発祥として伝えられています。

